2020東京五輪をめざして

2020年東京オリンピックの正式種目であるサーフィン、ビーチバレー。今回は、東京五輪出場をかけ世界を舞台に活躍する、下田出身の2選手へのインタビューをお届けします。

問合せ先　生涯学習課社会教育係　☎㉓5050

大野修聖さん
1981年生まれ。ホームブレイクは伊豆下田、多々戸浜。
JPSAグランドチャンピオン3回獲得。
2013年、国内外ツアー含め7戦連勝。
2015年、東京2020オリンピック追加種目検討会議でのプレゼンテーションにて、世界唯一のプロサーファーとして、サーフィン使節団のキースピーカーのほか波乗りJAPANのキャプテンも務める。

MASATOSHI OHNO

■下田での思い出

自然が豊かで、子供の頃には自転車で海に山へ遊びに行き、きれいな海で魚釣りをしたり、潜ったり、山でかくれんぼもしました。

外に出るまでは、下田がどれだけ大自然に恵まれているかあまり感じませんでしたが、改めて戻ってくることで、この下田という素晴らしい環境に育ててもらったことに感謝しています。

■サーフィンの魅力

海でサーフィンをすることは、職業でもありますが、今となっては自分の大好きな趣味として、上手に両立しています。

波を待っているときには、深呼吸をするだけでリフレッシュになるし、波に乗っているときには、自分の体の動くまま自由に自分を表現できるところです。

海は自分にとってごく自然でいられる場所であるし、全てを教えてくれる場所でもあります。

今のような時代だからこそ、サーフィンに限らず自然の中に身を置く、そのような時間が大切で豊かな気がします。

■東京五輪に向けての抱負

自分の経験を活かして日本チームのキャプテンやコーチとして若い選手のメンタルサポートができたらと思います。

土屋宝士さん
1987年生まれ。
ホームビーチは川崎マリエン。
2014年、国内ツアー初優勝、プロビーチバレー選手として活動を始める。
2016年、国体優勝
2019年、日本代表強化指定選手

TAKASHI TSUCHIYA

■下田での思い出

やはり海ですね。学校から帰って海、休みの日は朝から海という感じの幼少期を過ごしました。小学生から中学生にかけて、夏休みはジュニアライフセービングもやっていました。白浜で開催された国体でビーチバレーの補助役をしたこともいい思い出ですね。あのとき選手だった人で今もやっている人がいますから。ビーチバレーをやるきっかけになったのは、あのときかもしれませんね。

いつも周りの環境には恵まれていたと思います。

下田の友達と海は僕の誇りです。

■ビーチバレーの魅力

僕は究極のチームスポーツだと思っています。２人だけでボールを繋ぎ、相手に返すスポーツはビーチバレーだけです。試合中はコーチやスタッフからのアドバイスも禁止されますが、その中で勝利を目指します。プレーから垣間見える信頼感や集中力は鳥肌ものです。

また日差しや風、砂質などが大きく影響しますので、環境に合わせた頭脳プレーも見所です。

■東京五輪に向けての抱負

５月23、24日に東京五輪出場権をかけて、日本で最終決定戦を行います。ワールドツアーポイントの上位６チームがその最終予選に出られるので、今はそこに出場する権利を取るためにワールドツアーを転戦しています。

自分がオリンピックを目指すことになると思ってもいなかったですが、今の立場にさせてくれたビーチバレーとパートナー、関わりのあるすべての人に感謝して全力で挑戦していきます。